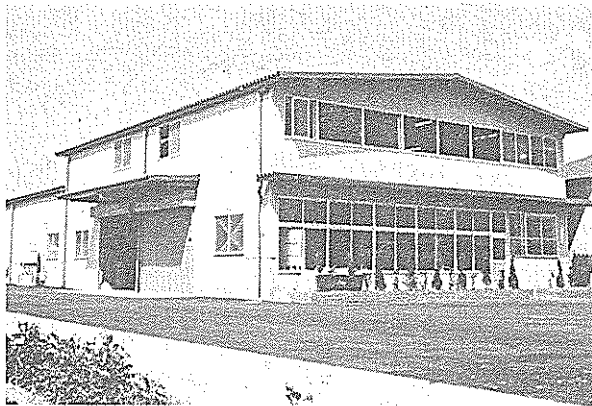


集出荷場と加工所

堆肥センター(市協) 相次いで落成

『地域に根ざした農協運営』をめざす両農協で、このほど立派な施設が完成、五月一日には岩村農協で、五月二日には南国市農協でそれぞれ落成が行われました。

岩村農協では、多くの品目が生産、出荷されていることから手ぜまとなったことや冷庫の必要性から国の補助事業で事業費四千万をかけ、『集出荷場』(鉄骨一部二階建て六百平方尺、予冷庫、作業

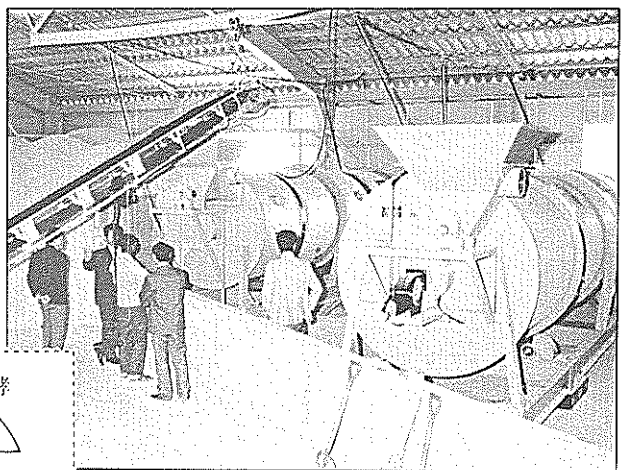


完成した岩村農協「集出荷場」



場、事務室、食堂、自動包装機を装備)の建築と、特に婦人の活躍を期待し、ミン、しょう油、そばの製造をするために、事業費五百万円で『農産物簡易加工所』(鉄骨平家建て七十二平方尺、回転釜、流し、ガス台、談話室を装備)を建築したもので、農家の営農に役買うことが期待されています。

一方、南国市農協では、県農業公社が主体となり、畜産経営環境整備事業で乳牛の糞尿公害を防止、土づくりに一役買おうと堆肥センターを建築しました。対象は、十九戸の日章、前浜地区の酪農家。約四百頭の牛の糞(一日約九ト)を持ち込み、それをオガクズ(高知市内木材業者の無償提供)と混ぜ、攪拌、約四十八時間一度発酵をさせ、さらにそれを堆積して二十日に一回の割合で切り返し、九十日一度二次発酵をさせ、完熟堆肥ができるとのこと。



完成した南国市農協「堆肥センター」

この堆肥は、ハウス農家などへバラもしくは袋詰で供給するそうで、すでに七十トほどの予約があり、早くも二名の職員は大忙がしの状態。

場所は高知大学農学部西側で、約三十畝の土地に堆肥舎二千四百平方尺、管理棟百平方尺と大規模なもの。内部施設は、発酵処理機二台、タイヤシヨベル二台、ダンプなど四台が完備。

ハウス農家の需要期のピークは、八月下旬から約一カ月間、センターでは日産十トの出荷を目標に今着々と堆肥づくりが進められています。

